

## 授業方法について独自に工夫している点と、アンケート結果を受けての改善点

教材開発を通して、学生同士が学び合う場を提供している。

学生が主体的に学べるよう学生による模擬授業を中心に、その授業に必要な教科教育論、授業論を組み合わせ、現場の授業につながる授業展開とした。学生は、ほとんど全員が真摯に、努力し、明るく学びの多い授業を回を追うごとに進めていた。そのため、回を追うごとに、講義の質・内容を高めたが、何度も休んでしまう学生や教え込みの授業しか受けてこない学生は子どもの疑問をめあてに子供と問題解決する創造的な授業への理解が難しかったと思う。今の指導要領で求められていることで学校現場でも難しいことなので当たり前である。反省は多々あるが、塾や学校にしている学生の多くが学んだことをすぐ実践し、その有効性を実感し、授業の前後に報告に来てくれたり振り返りにかいてくれたことは救いであり、学生の毎回のがんばり、発言で授業が深まった。授業はみんなで作るものと実感した。学生に感謝している。(毎回の振り返りや最後のふりかえりアンケートより)

学生と学生が、学生と教員が対話できる時間を多く設けて授業している。対話を通して、自分と他者との違いを認識したり、自分の考えを深めることができている。

講義の後半は模擬授業形式をとり、教職に就くために必要なスキルを身に付けることを心掛けている。

講義中の学生との対話を元に講義を展開することがある。

提出された課題の中から、典型的な問題点を含む数点をピックアップし、それらを公開添削することで、問題の本質と解決策を共有するように工夫している。一部しかピックアップしないのは不公平との意見もあり、公開の添削とは別に、個別のフォローも強化する必要がある。

一方的な講義にならないように演習問題を取り入れて、学生同士の学び合いを促した。定期試験以外の課題点を成績に入れて欲しいという意見が複数あったため、成績の算出方法について再検討していきたいと考えている。

- ・できる限り具体的な指導法がイメージできるように具体的事例・写真等を用いてプレゼンシートを作成している。
- ・双方向の授業になるように、指名して学生から意見を求めたり、ペアトーク、グループワークを通じて協働の学びができるようにしたりしている。
- ・学生のレポートをつぶさに読んで評価し、それをもとに学生へのリターンを確実にやっている。(ベストノート賞で紹介することによって学生の学びへのモチベーションを上げられるようにしている。)
- ・課題が負担であったというコメントがあったので、精選して提示できるようにする。

「教員から意見が求められたり、グループ・ディスカッションを行ったりするなど、質疑応答の機会があった。」「授業の内容への関心を高め、関連する資料や参考文献、事項や事象を自ら調べるなどの行動を取った。」の評定がやや低かった。コロナ渦とあって、学生が声を出す活動を制限していたのであるが、活動として不足していたかもしれない。また、授業に関して自ら調べられるように、授業では参考図書などを積極的に紹介していきたい。

知識伝達のような内容は、できるだけオンデマンドでコンパクトな動画を作成し、内容を繰り返し確認できるようにしている。小テストを1回で終わりにせず、再挑戦できるようにしている(知識の定着、学習へのモチベーションに配慮)。質疑応答の機会についてはまなびネットに質問欄を設けて対応しているが、アンケート結果から今後も工夫改善が必要と考えられる。

今年度は、コロナ禍ではあるが、授業中に近くの学生同士で話し合い何人かに発表させる機会を増やした。その結果が、アンケートに表れていると思う。

## 授業方法について独自に工夫している点と、アンケート結果を受けての改善点

コメントシートを使ったり話し合いの時間を設けたりして双方向の授業となるよう心がけているが、時間の関係で難しいこともある。学生たちがノートを取る時間を十分確保すること、試験内容や勉強方法の説明はできるだけわかりやすくすることに努めたい。

授業方法について、独自に工夫されている点:まなびねつとを活用し、学生の課題をもれなくチェックできている点。

アンケート結果を受けての改善点:今後まなびネットの連絡機能を活用し、質疑応対の時間帯を設けたい。

毎回、講義・実習内容に関するレポートを提出させた。これは、復習と講義内で示した問題について自分で考え、その考えをまとめることを目的に行った。また、レポートをまとめることで、新たな疑問が生まれ、その疑問を自ら調べるなど発展させることを期待してのものでもあった。しかし、生徒の「自ら学ぶ」につなげることはできなかった。今後、他の分野との関連を示すことや、生徒の知的好奇心を刺激できるような内容を盛り込んだ講義内容にしたいと考える。また、多くの生徒がアンケートに答えていないことから、講義・実習の内容・進め方に問題があることが考えられる。何が問題なのか改めて見直す必要があると強く感じた。

できる限り学生同士が話す機会を作りたかった。T1T2での連携をうまくいかせる必要があるので、一緒に話す先生とよく話す時間を取りたい

アンケート未提出者の方が多い科目の割合が高かったことを肝に銘じ、回答したいと思えるバランスの良い授業に努めたい。

教育支援専門職養成課程の1年生全体が受講する科目において工夫した点のなかで、アンケート結果でも好意的に評価されているのは毎回の授業に対して提出を求めるコメント内容(学生自身が受けた教育を振り返るなどの意義を持たせている)、動画の活用(社会の変化など抽象的な内容についてイメージを持てるようにするため)などがあった。またまなびネットの機能を活かし、最終レポートの草稿に対してコメントを付して返却した(受講生が130人を超える授業であるため労力を要した)。グループディスカッションや質疑応答の機会があまりなかったとの回答が2割程度あったため、アクティブに意見交換できる機会を増やしたい。

全体として肯定的な回答を受け、教員として非常に嬉しく報われた思いでいる。本科目は履修者数が教室収容定員を超えていたため、クラスを2分割して対面授業と遠隔授業を交互に行った。その結果、自由記述の設問では、対面時の映画を題材とした学習と、遠隔時のTOEIC対策学習の組み合わせが良かったという感想が寄せられた。教員側としては、感染対策のためにやむを得ず採った措置ではあったが、それがかえって履修者にとって有益だったのは新たな発見である。今後も、平時では取り組まなかった方法を試し、授業内容の工夫や向上へとつなげていきたい。教材とする映画の選択については、著作権や出版物の関係で、教室で使用できるものに限りがあるという事情がある。その中で、なるべく履修者の年齢等に近い主人公(今回の映画の場合は、大学を卒業して就職したばかりの若者)が登場するものを選ぶようにしている。改善要望にあった、音読の際に流す教科書音声の区切り方であるが、教員側も実はできるだけ長めに区切りたいと考えている。しかし現実には、一文が長い場合、句読点まで音声を止めずに流すと、個人差はあるが全体として、その後に続く履修者の音読が尻切れトンボになってしまう傾向もみられた。そのため、文法構造を考慮した上で、多くの履修者にとって音声が残りに残りに残りの塊で区切って流すようにしていた点、ご理解いただきたい。今後は履修者の反応により注意を払い、音読の上達に応じて少しずつ長めに区切っていくつもりである。

製図の初歩的な技術に興味をもって修得できるように、学生が関心を持ちやすいリビングのデザインをテーマとしている。

第2外国語のドイツ語を担当しているが、ドイツ語の文法だけではなくドイツ語を使用している国々の社会や文化についても解説し、理解や関心が深まるきっかけとなるように取り組んでいる。

ハイブリッド型授業にしていることです。アンケート結果では、もう少し関連付けの説明が必要だと感じました。

## 授業方法について独自に工夫している点と、アンケート結果を受けての改善点

できるだけわかりやすいように授業を行ったつもりであるが、グループディスカッションをどのように取り入れるかについて、検討する必要がある

毎回、1人1端末を使用し、ICT教育の具体例を示した。また、全員参加型を取り入れ、多くの指導技術を体験してもらった。周囲との話し合いも、毎回複数回取り入れ、それらは、学生による模擬授業でも発揮されていた。アンケートの結果は良好だったので、後期も継続したい。

情報教育入門担当の非常勤です。授業内容は専任の先生が決定され主に課題の評価を担当しているので独自の工夫の余地は少ないのですが、学生へのフィードバックを丁寧に行うことを心掛けています。

英語が苦手だと思っている学生が多いと思い、とにかく授業に参加してもらうことを第一に考え、出席してくれた学生には授業に出て満足してもらうことを優先に講義内容を組み立てています。やはりサボりたいと思ってしまう学生も何人かいました。きちんと出席している学生と、サボりがちな学生が出席してくれた時の学生への対応をもっと工夫するべきだと感じました。

### <工夫>

- ・13回の対面授業による模擬授業を中心にした内容を行った(2回遠隔授業)。
- ・受講する学生が教育実習直前の3年生対象であったため、模擬授業を経験することでより実践的な学びができたようである。
- ・主発問を大切にしたい問題解決的な学習の在り方について、毎回の模擬授業後に全員で振り返りを行った。

### <改善点>

- ・テキストを用いてあらかじめ準備した教材を使用したため、深い教材研究が行えなかった面があった。教材の捉え方や教材研究の仕方等を押さえつつ、より実践的な授業を計画したい。

- ・化合物の構造をわかりやすくするため授業で分子模型を用いるようにしている。
- ・年々学生の理解度の低下が見られるので、基本的な事項を繰り返し振り返る様にしている。

未回答の学生が多かったが、おおむねよく評価されているようでした。私は「自殺相談対応研修」を担当いたしました。新型コロナウイルス感染環境もあり、グループワークで相談する形式から、個別に考え発表する形をとった。健康に配慮しながらの学習環境の改善について今後考えていきたい。

履修者が自ら課題解決するように配慮したことにより概ね授業目標は達成されたようです。もう少し丁寧に解説することが必要な者もいることに配慮する必要があると認識しました。

授業では、ペアワークやグループワークなどを取り入れ、より理解が深まるよう、学生ともども取り組んでいます。以後も学生参加型で授業を進めていきたいと思えます。

保育のエピソードを検討し、様々な意見を出し合うこと視野を広げられるようにする。自主的な学びとなるように調べ学習やグループでまとめる等の方法を取り入れる。

近年学校教育の現場でもタブレットなどのIT機器を活用した授業が展開されるようになり、主にデザインに関する授業において、PCやタブレットを活用した授業を行うようにしている。しかし、こういったデジタル機器は学生の背景によって得手不得手が大きいので、導入時で苦手意識が出ないように、基本的な理解を深めるよう授業を展開している。

毎時間学生からコメント収集し質問・要望に応じています

## 授業方法について独自に工夫している点と、アンケート結果を受けての改善点

15分を一区切りに一つのテーマを説明している。適宜、ワークを盛り込む。より魅力的なパワポになるよう、改善に努める。

コロナ禍のため、欠席者に対して補講(実習)を何度も行った。授業に用いる題材を早目に検討したい。

授業中の学生どうしの意見交換や授業後の教員へのリアクションペーパーでの質問などを工夫している。アンケート結果を見ると回答者の多くはそれらをポジティブに受け止めていると考えるが、さらに改善できる点を探したい。

すべての教材や課題等を「まなびネット」で提供しているので、学生はいつでも見ることができ、自宅等からでも課題が提出できる。多くの授業で動画や静止画等、テキスト以外にも複数のメディアを用い、学生が自分のテンポで学習できるようにしている。その一方で、対面や遠隔において、ワークショップやグループワーク等も行い、対話的な学びを実現している。学びの意味を、学生は狭い範囲で考えがちだと感じた。伝え方をさらに工夫していきたい。

課題探究への方法を分かりやすく明示することを心掛けている。アンケート結果は回答率が低いので、そこから授業者の工夫へのレスポンスは、正直なところ計り知れない部分がある。これからも前述の心がけを継続していく他ないと考えている。

受講生のアンケート回答率が低かった。アンケートへの呼びかけをしっかりと行いたい。回答者においては、概ね授業の目標が達成できている状況だとわかった。

授業をする際の指導のポイントや児童・生徒の造形的な見方・考え方の把握法等を具体的に取り上げ学校現場で役立つ実践的な内容にした。今後は、授業の目的や意図等を明確にして、より実践的な内容を扱う。

遠隔と対面の両方の授業形式を導入し、コロナ禍で培った教材コンテンツを豊富に利用した。ただし、対面の授業が中心となった本年度、情報過多の傾向があり、学生には負担であったような印象を受けた。次年度は内容を精選したい。

観察や学生が自分で考えられるように、課題を設定しているが、アンケートでもおおむね満足という回答だった。今後も、学生をよく見ながら授業を進めていきたいです。

独自というほどのことはしていません。あたりまえのことをしているだけです。

対面授業でディスカッションやグループワークを取り入れていることは概ね肯定的に受けとめられており、効果的であることがわかった。オンデマンド授業の動画再生に困った学生が数名見られたので、これらの改善を試みたい。

3年生の授業では実習を考慮し板書を義務づけている。

座学の場合は、学校現場での映像をたくさん提示することにより、より現場目線での教材づくりを心掛けている。アンケートを受けての改善点として、実技でのペアづくりについてのコメントがあった。男女で組むようにという指示をしていたが、様々な問題もあるため男女という指示はなしの方がよいと感じた。



## 授業方法について独自に工夫している点と、アンケート結果を受けての改善点

### 工夫している点

- ①前半は理論を中心に、後半は演習を中心に授業構成をしている。アクティブラーニングを必ず入れるように心がけている。
- ②人としての考え方や生き方、心の持ち方のヒントになる内容のプリントを授業の最後に配布している。
- ③今日の学びの振り返りを記述させ、コメントを一人一人書いて渡している。

### 改善点

- ①学生がさらに主体的な学びができるような教材を考えていきたい。
- ②理科が専門でない学生には、理科は親しみやすく教えやすい教科であることを実感させたい。そのための教材をさらに増やしていきたい。

授業については50名以上の人数のため、一斉授業となりやすい。しかし、映像やアンケートなどのエクササイズ、後半では書籍紹介や事例検討を行い、自分で関心のあるテーマについて深め、仲間と共有できる機会を設けている。しかし、今年度は発表者の人数が例年よりやや多く、授業の内容を詰め込みすぎて、前授業のコメントシートの振り返りを行う余裕がなかったため、全体の満足度が下がったように思われる。今後気を付けて双方向のやりとりができるよう心掛けたい。

例年と大差なく、問題ないとは思っているが、もともと不人気な分野だけに、わかりやすく、かつ、論理的に話すよう心掛けている。

授業の方法については、「多人数」の授業では個々の学生さんが「挙手」をして質問をするのが難しい状況だと考えられます。よって、ネット環境(まなびネット等)を活用して、個々の学生さんの意見が集約できるように工夫をしたいと思います。

実技科目では、講義で仕組みを理解した上で実施するように工夫をした。また、まなびネットもうまく活用しながら実施ができたと考える。講義科目については、意義を伝えることができた部分もあるが、学生同士のディスカッションの時間が少なく、知識を伝えるとともにそういった時間をもう少し確保する形も心がけたいと考える。

- ・事前に資料を配布し、あらかじめ予習や授業をしやすくしていること。
- ・授業毎に小レポートを記載して、授業の重要ポイントを勉強していただいていること。

感染者数の増加に伴って、議論の機会を減らしてしまっただが、出来るだけ確保するようにしたい。

授業方法については、社会調査など学生が自ら実践することで習得できるようにして、またプレゼンの機会を設けることで、他の学生の取り組み方も参考にできるようにしている。ただし全体に意欲の低い学生について、専門内容を分かりやすくする等、参加意欲を高める工夫が必要であると考えている。

工夫している点として、学校現場での経験を活かし、実際に取り組んでいた学習内容等の紹介を動画や画像を用いて説明していることである。改善点として、学生同士のやり取り(話し合い)や教員と学生のやり取りが少なかつたため、後期はロイロノートを活用して、学生の意見共有がしやすいよう工夫したいと思う。

1年生を対象に、初めて 児童用 デジタル教科書を利用した。学生は前向に取組み、授業のあり方を考える機会を持った。授業内容に関して、教科教育の理論的背景を、いかに実践につなげていくかという、「理論と実践」をさらに深めていきたい。

学生と教員のやりとり、学生間のやりとりを意図的に多く設定しています。コメント・アドバイスの機会も、学生の「積極的」態度が見られる場合には、多めに提供しています。また、異なる視点からの意見や解釈も提供しています。学び手の学修意欲は教え手にも影響があり、化学反応が起こることを、是非学生にも指導法理解の上で意識してもらいたいと考えます。

## 授業方法について独自に工夫している点と、アンケート結果を受けての改善点

### 独自の工夫

・自身の実践を具体的に(写真・映像で)紹介しながら理論と結びつけて講義を行っている。学生のレポートを分析し、その意味をより意識できるように次回の授業で紹介している。  
・アクティブ・ラーニングとして、具体的な活動や出前授業、グループ討議、単元構想を考えパワーポイントに作成し発表するなどの機会を設けている。

### 課題

・総合的学習の授業では、オリジナルの単元構想を考えさせたため、自分で資料を探す機会を設けられたが、M1科目では、自身で調べる必要性が総合と比べると少なかった。関連する資料や参考文献、事項や事象を自ら調べる学習の場を更に考えたい。

理系の学生には、高校化学との関連性を示して、それとは異なる新しい視点を解説した。また、レポートの考察のポイントを示した。文系の学生には難しい内容であるので、親しみやすいトピックスを紹介したり、テーマに対して自分の意見を求めるような出席レポートを書かせて、講義への積極的な参加を促した。イメージやエッセンスを伝えられるよう努めたい。

実技の授業であるので、学生一人一人の技術力、表現力、感性などが違うため、個々に合った指導を心がけている。アンケート結果を見ると、なかなか個々に合った指導が理解できない学生も散見される為、より丁寧な指導が必要と思われる。ただ、個々に当てられる時間が短いため、難しいとも言える。S2Aの授業では、小学校の音楽共通教材を歌うことで読譜力や表現力を身につけてもらう授業を考えて行ったが、コロナの為、多人数で歌うことは不可能と考え、ほぼオンデマンドでやるしかなかった。その点に対する学生の不満もあると思うが、動画を送ってもらうことにより、個々への指導は細かくできたと考える。

工夫点:まなびネットのトピックの並び順について、標準では新しいものが下に追加されるようになっているが、新しいものが上に表示されるようにして見やすくしている。スライドのデザインやフォントを工夫し、見やすいスライドを作成するようにしている。

改善点:作成した動画の画質が悪く、分かりにくかったという声があったので、来年度の授業では作成し直すことを予定している。

授業は受講生の主体性を尊重して、提案型の授業としている。

授業の学生評価を確認しました。多くの授業でそれほど悪くない評価をいただいたと思います。コロナの影響を考慮して一部の授業でオンデマンド教材を活用しましたが、それが学生の学びにどう影響したかわかりません。今後の授業はできるだけ対面形式で行うとともに、引き続き学生の興味を引き出せるような工夫をしていきたいと思っています。

### <工夫していること>

・対面授業では、VTRの視聴や小グループでのディスカッションを中心に構成し、対面授業でなければ実施できないテーマや教材等を選択していること。遠隔授業では、配布資料や映像資料などを複数用意し、受講者のペースを優先にしつつ、発展的な学習もできるように工夫していること。

### <改善点>

・オンデマンド教材と、対面授業のテーマと、どのようにうまくつなげていくのか、今後の課題として取り組みたい。

独自に工夫している点は、養護教諭として必要な知識と技能が身につくように学校現場を想定して授業を進めました。

まなびネットを活用し、学生の提出した課題への評価を可視化することで、課題へ取り組む意欲を持たせるようにしている。また、学期末までの間に課題成果を積み上げることで、包括的な授業理解に結びつくように授業運営をしている。

学生が自主的に考え、徒弟主義を廃止し、個別の到達点への方向付けとよりよい納得する最終生産物の作成を個人が目指すように指導している。改善点は特にはない。ゼミ生の人数が少ないともう少し丁寧に指導が可能と思われる。

## 授業方法について独自に工夫している点と、アンケート結果を受けての改善点

授業アンケートを行った講義はいずれも対面形式であった。工夫した点は、演習の時間をなるべく取り、その際には見回るなどをして学生の理解度を知る努力をしたこと、また授業後の机の消毒や換気などを毎回徹底して行い、対面での講義に不安な学生に対してできる限り配慮をしたことである。自由記述欄がほぼ空欄であったが、ただ一つ、ノートを取ることに理解につながらず効率が悪いという意見があった。一人の学生の意見として受け止めはするが、教科書には書いていない板書をノートに書き、自宅でその復習をすることの必要性を講義の合間に伝えようと思う。

技術のレベルアップに対してボールを変えて工夫した。未回答が多かったため特になし。

グループでの主体的な学びができるようなカリキュラムを作っており、その点で、良いアンケート結果が得られていると思う。今後は、グループ内での意欲の格差を埋めるための工夫を検討したい。

授業方法については、受講生の理解に資するような方法を常に心がけているつもりだが、それら何ら「独自」のものではない。ほとんどは他の先生方の真似(いいところ取り)である。この点についてオリジナリティの呪縛に囚われる必要はないと思う。それと、今回のアンケート結果は回答数自体が少ないので、そこから何かを導き出すことはできない考える。

学生の興味関心が湧くように工夫している。授業を受けて、さらに調べてみたいと思うような授業づくりをしようと思った。

授業では、学生がただ聞いているだけという内容にならないよう、1コマに1つ必ず課題を設定し、質疑の時間をとるような工夫をした。その結果、ほとんどの項目において、よく思う、ある程度思うの割合が半分ずつで推移していた。来年度は、よく思うと学生が自信を持って回答できるような授業を心がけたい。なお問5のシラバスに掲げる授業目標から考えると、自分は「目標を概ね達成したレベル」を越え、より優れて学べていると感じる機会があった、という項目は、自己評価が低めでしたのでもっと高められるように明確なフィードバックを心がけたい。

講義形式の授業ではやや難しいと感じる受講者がいることが、アンケートの結果からうかがえる。内容を一定量に調整することを検討したい。また講義が一方向性にならないよう、受講者自身、能動的に疑問を解消したくなるような機会・動機を作る工夫を試みたい。演習形式の授業では、基礎→応用へという段階を踏めるような内容を用意した。なぜその課題を取り上げるのか、そのことを理解することによどのような意味があるのかについて、受講者において十分な理解が及んでから臨めるよう、心掛けています。様々なレベルの議論があつていいことを繰り返し伝えることによって、受講者にも能動的な参加姿勢がうかがえるようになった。特に受講者相互で相談、整理を行う時間を設けたことが、授業の活性化には有効であったと思う。

ほとんどの回答は「よかった・そう思う」あるいは「ややよかった・ややそう思う」なので、基本的に満足です。

担当のどの科目についても、対面の他にまなびネットを利用しています。まなびネットでは、受講者に対して個別にコメントや詳しい説明を、できるだけ毎回フィードバックするようにしています。アンケート結果とは別の事項になってしまいますが、もっと冷静に、受講者に対応できていればよかったと感じる場面がありました。まだまだ修行が足りないと感じ、今後の授業実践に臨みたいと思っています。

独自に工夫している点として、授業では、毎回プレゼンテーションソフトやGoogle formsなどのICTを活用して学生の内発的動機づけを高める講義を心がけている。主として、授業の前半は理論的解説(含む映像教材を用いた学習)を行い、後半は「ロールプレイ」や「実習」を随時取り入れ、学生自身が主体的に授業に参加できるよう工夫している。さらに、授業の最後には毎回「リアクションシート」を配布し、次回の授業の冒頭にプレゼンテーションソフトを使い学生の質問に回答することで、双方向の授業を心がけている。また、学生の授業外の学習効果促進のため、学生に対しては授業課題レポートを課し、提出された全員分のレポートについては、内容及び形式面に関するフィードバックを行っている。アンケート結果を受けての改善点としては、低かった項目を中心に改善点を検討し、具体的な方策を立てることを予定している。

実技であるので、多人数の授業だと見せにくい手元をタブレット等を利用しプロジェクターで大きく見せている。危険防止や実技の細部を可能な限り表示した。興味関心を広げるという点では、もっと関連する事物を提示すべきだった。



## 授業方法について独自に工夫している点と、アンケート結果を受けての改善点

大人数の講義形式ゆえ、受講者に直接意見をきいたり、グループディスカッションを行うことが難しく、当然ながらそれに関する評価は低調だった。しかし、工夫の余地はまだあるはずなので今後は特に「まなびネット」の活用を通じて受講者とのコミュニケーションを一層はかりアクティブラーニングを効果的に実践してゆきたい。1学年対象の授業では、学期末レポートについてのより丁寧な指示が求められていたことが分かり、今後は気をつけたい。

個人、あるいは少人数の授業では、よくコミュニケーションをとることができ、信頼関係を築きながら内容を深めていくことができた。一方で、大人数の授業については、対面と遠隔のハイブリッドで実施することになり、学生にも授業者にも少し負担があったように思う。様々な理解度の学生、苦手意識をもつ学生などが履修する中で、授業の意義を実感してもらえる指導を心がけたい。専門的な内容も、他の分野や子ども理解などと関連づけ、学生の興味の幅を広げつつ掘り下げられるよう努めたい。

福祉関連の科目は保育とは別と考えている学生が多いので、保育士資格の科目として保育と関連させて事例を交えたことは評価されていた。保育にどのようなつながっているのかをより学生が実感できるようにして学習意欲につなげたい。

授業については、現場で活用される教材・教具の工夫について実物にふれたり、グループでの話し合いの場を多くもったりしたもの、初等の学生と中等の学生では受け取り方が違っているように感じた。また、4年生対象であったことから、より実践的な内容を取り入れていきたいと考えるが、実習・就活面接・採用試験などもあり、実は講義形式の方がよいのかもとも考えている。

学生にとって初めて出会うスポーツとなるようにこれまでの学校体育では取り組みがなかったであろう種目を講義内で紹介する形で進めた。また、運動・スポーツの不得意、性別などに関わらずルールなどを少し工夫をしながら講義を進めることで履修者全員が積極的に取り組めるように配慮した。アンケートの結果でも肯定的な意見を得られたのは結果として一定の評価を得ることができていたのではないかと思う。今後は講義の到達目標に学生自身が取り組めるように尽力していきたいと思う。

対面授業時には、集って意味のあるコンテンツを取り扱っている(グループワーク、アンサンブル)。マスクを外しての活動(リコーダー演奏)は遠隔授業で取り扱っている。

「工夫」: 手間はかかりますが、対面+遠隔のハイブリッド型の授業を行いました。アンケートの回答からも、ほぼ全員がハイブリッド型の授業に理解を示してくれたと思います。  
「改善点」: コロナ禍のため、コロナ以前には積極的に行っていた学生同士のディスカッションを本年も中止しました。一部の学生から、ディスカッション希望の声が寄せられています。後期の授業では、制限は加えながらもグループワークを取り入れていこうと考えています。

教職の基本的な事柄を理解できるように、パワーポイントを作成している。

学生が互いに意見を交流し、思考を深めていく場づくりに努めている。さらにそうした学び方が学校現場でどのように生かされるかを説明していきたい。

授業で使用する英語のテキストには、これまでに知らなかったことや気づけなかったことなどが書かれています。それらを各自が予習で読み込み、不明な点をはっきりさせた上で授業に臨んでもらいます。授業の中で英文の解釈をしたり、設問に解答したり、教員が説明しながら、その不明な点をはっきりさせていきます。教科書の内容に何を付け加えるか、を毎回の授業で工夫しているつもりです。時代にあった内容、学生の皆さんの興味関心のある内容、将来、教壇に立つときに役立つ内容をこれからも探していこうと思います。アンケートの結果から、学生同士の話し合いの時間をもう少し多く取った方がよかったですと思いました。過去2年半はコロナ禍でアクティブラーニングが思うようにできませんでしたが、少しずつ増やしていこうと思います。eラーニングについては、F科目の単位取得要件にもなっているので、利用していきますが、そのレベルについては今後検討の余地があると思いました。



## 授業方法について独自に工夫している点と、アンケート結果を受けての改善点

アクティブラーニング、模擬授業等体験的に学習できるようにしている。一方で、グループやペア活動を行うことができない学生がいる。

復習が可能なように、授業動画を学びネットに掲載している。また、高校時に物理を履修していない学生のために「学習相談室」を正規の授業枠と異なる枠に週3設けている。アンケートの記述の中に、物理未履修なのでついていけないという意見がいくつかあったが、物理学学習相談室の利用状況を見ると、学生自身が学び取ろうとしているのかがいささか疑問である。これについては特に私の方で改善に資する有用な意見とは考えない。一方で、提出期限前提出のインセンティブ制度が不公平だという意見があり、これについては次年度以降変更の可能性の余地があり、検討する予定である。

対面授業でも、参加学生によって教師からの知識伝達型を好むものと、受講学生による意見交流型を好むものがいて、授業時間が限られる中、全員が非常に満足と感じられる授業は難しいと思われるが、対面授業と遠隔授業の良いところを取り出しているのも、それぞれの長所を活用していく姿勢で受講してもらえよう、ガイダンスをしっかり行うことが大切であろう。

シラバスを通じた全体像の提示、資料の提示について工夫を重ね、学習目標をとらえられるようにする。

回答数が1クラスでは2割程度、もう一クラスでは5割程度であり、断定的なことは言えないが、回答者のうち「よくあった」と「ある程度あった」を足してそれぞれ60%、80%であった。従って概ね成功していると考えられる。具体的なコメントがないので改善点を考えるのは困難であるが、TOEIC対策を授業内により多く取り入れたいと思う。

ほとんどの項目でポジティブな結果であったが、学生たちが学習への自信をさらに深められるようにフィードバックをより行う機会を持ちたい。

工夫している点は限られた時間の中で学生が問いを作れるように整理された情報をはじめに与えるようにした。そして、実践を通して対話的に問いについて解決していけるように小グループでの活動を主に取り入れた。授業の改善点については、概ね高評価だったためありません。

学生の皆さんのアイデアを具体的な教材づくりに反映させ、学びネットにて各領域別にて共有を図るようにしている。指導内容の系統性とともにも他教科との関連等も図るようにしていきたい。

座学とフィールドワークを組み合わせるなど、知識が体感として身につくよう授業設計している。

学生が教育現場に出てすぐに役立つことを授業での学習内容としています。また、毎時間、授業のふり返りを学生に書かせ、その振り返りを次の授業に生かすようにしています。そのため、シラバスとは内容が異なる場合があります。変更点については、学生が納得できるよう今後もきちんと説明していくつもりです。

課題に対しての学生の話し合いと意見発表(AL)を入れている。  
質問に丁寧に答えすぎて時間がおしてしまい授業内容が次回に回すことが(学生のコメント通り)あったことは今後の改善点。

- ・全授業において、教職現場経験を交え、実践に生かせる理論を伝えるよう工夫している。(有効な声かけのあり方など具体例を入れるなど)
- ・オンデマンド授業の内容を、分かりやすくなるよう改善をはかる。

授業では、授業中に説明したことをもとに学生が活動し、それについてクラス内でコメントするようにしています。アンケートで、課題に対する指示が分かりにくい点があったと指摘をいただいたので、今後は分かりやすく指示するようにします。

## 授業方法について独自に工夫している点と、アンケート結果を受けての改善点

基礎知識の個人差が大きいので、できるだけ個別対応をする様にしている。

・書道演習という授業の性質上、実技中心であり、技能習得を目標にしたものであった。授業では、隣同士で改善点を指摘し合ったり、基準提示に該当するかを確認したりした。  
・作品提出を毎回行い、次回に評価とコメントをつけて返却した。そのため、本人がそのコメントを読み、改善点を修正する機会となったと思う。  
・授業アンケート問4の評価が低かった。実技中心でグループディスカッションをする時間を確保できなかった。実技の時間を十分確保したいところだが、学生の技能を考慮しつつ、今後はディスカッション等の時間を作るようにしたい。  
・現場では、教師が書写の時間に筆をもって指導する機会がほとんどない。動画による筆遣いも視聴できる。しかし、国語科の教員としてある毛筆で書けることも必要と考える。自分が毛筆で書けることによって、子どもが書けない理由が分かると考える。今後は、子どもが書いた文字を示して、どのような指導が必要かを考える授業展開を取り入れたい。

授業の冒頭に、前回授業で提出された質問への回答の時間を設けているが、これについてはおおむね好評であるので、時間配分等に配慮しながら今後も継続したい。試験の方式を自由記述式にしていることについても好意的な意見が多いが、試験時間を長くしてほしいなどの声もあるため、改善策を検討したい。

S科目の授業では、どうしても数式を用いた座学が中心になってしまうため、演示実験や歴史的物理実験の時代背景の解説なども混ぜることで、学生の興味関心を惹くよう工夫した。それでも、高校で物理を未履修だった学生にとっては内容が難しく感じたようで、その部分を補うような教材を作成するなど、さらなる改善が必要であると感じた。

アンケート結果については、未回答が過半数であり改善点を明確にできない。授業の工夫について、深い学びの視点であったり、児童生徒の反応事例等を基に行った。さらなる学生の考えを引き出す工夫を今後検討したい。

効果的なグループワークのためのテーマ設定と、レポートへのフィードバックが課題である。

提出物へのコメントが、感想に近く、何を改善すれば良い評価につながるかの指摘が欲しいという意見がありました。評価のコメントとともに、学生同士のふりかえりを共有する仕組みにして学びの場を増やすことにしました。

独自に工夫している点は、学生同士の話し合いの場の設定を充実させている点です。アンケート結果を踏まえると、学ぶ意味(教えられる知識が何のために必要なのか)を理解させる必要があると感じました。

本学の学生は授業後に感想などの提出を求めると、そつなくまとまりのある文章を書けることがわかったが、理解の程度を客観的に把握することには慣れていないようで、未回答の多さが目立つ。今後は理解の程度を把握するような小テストを試みることを検討する。授業の中で学生の意見を求めるにあたっては学生相互の意見交換ができるように工夫をした。その際には対面授業であってもTeamsを活用することが有効であった。

講義科目は概ね高く評価してもらいましたが、自ら調べて学ぶような機会が感じられなかったようですので、復習用プリントにその機会を設けることで改善につなげたいと思います。演習科目では自分の手でモノをつくることから始めましたが、調べたり考えたりする機会が少なかったようです。つくることを基点に少しずつ考えを深める機会や設問を増やしていきたいと思います。実習科目では多くの項目で評価がバラバラに分かれていたため、評価の低いものから改善したいと思います。まずは進み具合が遅れがちな学生がつまづいているポイントを丁寧に扱うことで改善に取り組んでみたいと思います。

## 授業方法について独自に工夫している点と、アンケート結果を受けての改善点

どうしても発話を伴うF科目の授業では、コロナの感染状況が大きく変化する中で、それに応じて対面と遠隔を何度か切り替えました。「分かりづらい」という批判があるかと思いましたが、学生もteamsでの通知の確認に慣れてきているのか、むしろ状況に応じた授業方法の変化を「安心できた」と好意的に評価する声がありました。まだしばらくは外国語授業の困難な状況は続くので、今後もフレキシブルに変化させていくつもりです。

演習では、事前の打合せを大切にしている。シラバスの説明が不十分であった。今後は、シラバスについて丁寧に説明したい。

学生が能動的に学ぶ仕組みと構成を考えています。

技能系の教科であるため、受講者に技能の差が生じてしまう。一斉授業の場合は、グループ内でお互いに協力し合うことを促している。個人レッスンの授業で受講者が初心者の場合は、ティーチングアシスタントを依頼し、受講者の精神的負担を和らげるようにしている。

対面授業であるが、授業内容を学びネットで事前配信して、予習や復習に活用できるようにしている。また、授業中には受講生からの声を傾聴するように心がけている。アンケート結果を受けて、さらに受講生の意欲や関心を高められるようなく見やすい配信コンテンツの作成、わかりやすい導入(本時の目標を明らかにする)に心がけようと考えている。

FS科目、S科目(1)、S科目(2)ではディスカッションを重視し、学生もその趣旨を理解している。S科目(3)は講義科目であり、前者に比べるとやや学生の参加意欲が低い傾向にあるものの概ね趣旨を理解している。今後学習意欲を一層高めるよう工夫したい。

反転授業やグループワーク、ディベートを取り入れている。レポート指示もオンデマンドで出していたが、最近学生にとってweb授業が多すぎるせいか授業動画を見ていない(流し見している)学生が増えているように感じる。

15回の授業のうち8回を対面授業としています。その対面授業では、後半30分ほどを学生のアウトプットの時間として、グループの意見交流や全体に向けた意見交流を図る時間を確保しています。毎時間10人以上の学生の発言があるので、大学生としてまあまあの学修態度かなと評価しています。特にグループの意見交流で内容的に盛り上がる交流をするグループがあり、効果をあげていると思っています。また、毎時間の振り返りはその意見交流を踏まえた内容と指定しているので、振り返りで一層の思考を促すことになっています。一部の学生はついてこれない者いますが、多くの学生が付いてきて効果が上がっているのではないかと考えています。アンケートを見ると大いに参考になったという回答が多いのがうれしい限りです。おそらく、社会科学を含む私の授業論に対して、いろいろ考えられるのがいいのではないかと推測しています。自画自賛になってしまったようですみません。今後、できたらもっと交流の時間を長くとり、学生の自主的な発言を多く引き出したいと考えています。

授業のオリエンテーションでは、授業のテーマについて解説し、学生自身に選択・判断させる場を設けている。アンケートの結果を受けて改善すべき点は、授業のフィードバックの仕方である。学生の授業での学びや成長を振り返り、自ら学修を調整する力を育成する必要がある、それをサポートするコメントが必要である。

F科目に関しては、テキストの練習問題では足りないのと、ひたすら説明を聞くよりも授業内でドリル作業させた方が理解と定着に資するので、練習問題プリントを教材として作成している。単語練習帳まで作成しているのだが、さほど評価はされていないようなので、一度廃止して自助努力に任せてみるのもよいかもかもしれない。

実技の授業だと、教師と学生の対一での指導が増えてしまうのだが、ディスカッションや、仲間同士での話し合う場面を作るよう工夫しようと思った。



## 授業方法について独自に工夫している点と、アンケート結果を受けての改善点

毎回の講義冒頭に出席テストを行い、講義の復習を促している。また、まなびネットに講義資料を掲示し、予習復習の便宜を図っている。

アンケートでは比率的に高評価の方が低評価を上回ったので、それは良しとするものの、「無回答」が多かったところは反省点としたい。良きにつけ悪しきにつけ、何らかの反響を生むような闊達な授業運営を今後は心掛けたいと考えている。

工夫している点：授業冒頭に前回の振り返りと学生のコメントに対するフィードバックを丁寧にやること。グループディスカッションの時間を多めにとること。

改善点：学生が授業以外の時間にも主体的に学習できるような声かけや課題の提示を心がけたい。

実技のため、グループで教え合って行えるように、工夫したため学生の満足度が高い。しかし、COVID-19のため感染予防で授業内容を制限せざるを得ないため、改善が難しい部分がある。

演習科目では、受講生相互のディスカッションを重視して進めており、受講生からも総じて肯定的な回答が得られている。一方で回答から授業外の課題設定に工夫が必要であると感じた。授業内容の理解を深めるうえでも今後この点の改善を図りたい。

全ての授業において、「こらぼ」の学生ICT支援員によるロイロノートの使い方の説明と実習(体験)の時間を設けています。3年生の授業では、班別にロイロノートを用いた模擬授業を行わせています。模擬授業を行って終わりではなく、改善点を資料や参考文献などを使って提案するところまで行えるようにしたい。

### 工夫点

- ・他学生との意見交流の場の設定
- ・繰り返し指導による基礎的内容の徹底
- ・つまづきを早期発見し、授業内容の修正

### 改善点

- ・学生自ら調べる力を伸ばす場面の設定

### 【工夫点】

- ・グループでの活動時間を増やし、仲間同士で問題解決できる能力を身につけさせる。
- ・学生が体を動かしやすい音楽を流しながらダンス授業を進める
- ・授業後にアンケートや感想記入を促し、次回の授業に反映させるようにする

### 【改善点】

- ・興味関心を持たせる内容に近づけていくため自身授業の研究を行う。
- ・動機づけをしっかりとする・この授業が今後どのように役立つのかを伝えるようにする

学部4年生の指導法の授業であるため、これまでのCⅠからCⅢの学びを総括し、次年度直面するかもしれない実際の学校現場を想定して、例えば「この場面ではCⅡで学んだ●●という知識を活用すれば、適切な教育を行うことができるのではないか」というような学びが得られるような展開を考えていました。前時までに問われた学生さんたちからの疑問については、できる限り翌週、または翌々週に回答をするようにしていました。これはおおむね達成できたことと思いますし、これが学生さんたちにとって授業づくりをする際の参考になればよかったです。しかし、毎時の授業の中で、各グループ内で検討をする時間を取ることはできたものの、「全体でディスカッションをする時間」を多く取ることができなかったことから、グループ内で出たであろう疑問点に対して、より多くの視点からその疑問点にアプローチをすることができなかったように思います。その点については、授業を運営する立場として、時間管理の未熟さを申し訳なく思います。アンケートの自由回答で、大変ありがたく、勇気づけられる意見をいただきました。ありがとうございました。開講時期はどうしてもCⅣのため4年前期となります。今後ですが、何か別の時間で学生さんたちに理論と実践を往還できるような機会をもつことができればと思いました。方向性としては、翌年学校現場で働く際に生かすことのできる学びが得られるという視点は継続しつつ、これまでの学びをより活用できるような授業内容を考えていきたいと思っております。ありがとうございました。

## 授業方法について独自に工夫している点と、アンケート結果を受けての改善点

(工夫点)教職科目(M2)・教科内容科目(S2)に関しては、授業開始時に前回の授業内容に関わる小テストをしている。また、授業内で課題を解決させ、その解説を通じて、授業をすることも多い。  
(改善点)教科内容科目(S2)などでは、授業内容が教科書(学習指導要領解説)のどのページに相当するかを明示して欲しいとの要望があった。授業ではそれを口頭で言うのみだったが(そして、それは、本来は学生の勉強のうちだと思うのだが)授業のどこかで、それを探させて共有する作業をやってみるのは、学習方略を獲得させる作業の一環としてよいかもしれないと思った(今期は、是非取り入れてみようと思う)。

授業では、生活科において子どもが意欲的に学習活動に取り組み、資質・能力を伸ばしていった実践事例を多く取り上げるとともに、それを可能にした教師の熱意と工夫を詳しく伝えるように心がけました。学生の自由記述を読むと、生活科の意義や必要性、教師の在り方を捉えた意見が見られるので、今後も教育者としてのあり方も含め、しっかりと授業で伝えていきたいと思えます。また、毎時間の課題レポートについて個々にコメントと書くように努めました。これも学生の意欲向上と学びの深化につながっていると考えられるので、今後も継続したいと思っています。

回答の尺度のうち中間(「あまりなかった」というのがかなりあるので、授業内容を反省し、よく考えて改善していきたい。自由回答で「オンラインの授業でもよかった」という回答が多いのは、インタラクションのない一方通行の内容が多かったということかと思われる。これも再考すべきである。

- ・授業中に15～20分に1つ、発問をして、学生同士で話し合いをさせ、数名に意見を求めて情報交換を行う機会を作る等、「主体的で対話的で深い学び」に繋がられるように工夫をしている。
- ・学校現場で学ぶ聴覚障害児のエピソード、学校の先生の指導上の工夫等を話すことを心掛けている。
- ・学校現場の教育実践の取り組みを、ビデオ映像で視聴する時間を作り、実践的な学びができるように工夫している。
- ・聴覚障害学生が履修する授業が多いので、パワーポイントのスライド資料を多めに作成して配布し、手話を付けて話している。聴覚障害学生が履修する授業では、健聴者の学生が意見を述べる際には、手話をつけて話をするように指示している。
- ・授業での情報量が多いので、話すスピードが速くなってしまうことが課題である。ややゆっくりめに話することを心がけたい。
- ・授業で学生の求めたい知識が多く、求める技能も高いので、自分が担当する授業のカリキュラムマネジメントを考え、1年生から4年生まで時間をかけて積み上げていけるようにしていきたい。

○回答率が低かったが、アンケートの結果から概ね実習科目の授業では、授業内容の理解を深め、意欲的な学修に取り組むことができていた。  
○対面授業では、学生同士のコミュニケーションや情報共有スキルを高めることが必要と考え、グループワークやディスカッションを取り入れるようにしているが、今後も授業内容に取り入れるようにしていきたい。

今後もポルトガル語の複雑な文法が分かりやすく面白いパズルのように見られるよう自分で考えた「パズルカード」を使うメソッドで教え続けたいと思えますが、今後はより学習に役に立つ方法とより簡単な扱い方を見つけないと思えます。また、対面授業ということで、自作のプリントやパワーポイントなどの資料を使ったり、ポルトガル語を聞く・話す機会を増やしたりしたいと思えます。また、時代に合わせて、授業中のラインを使った会話の練習も続けたいと思えます。アンケートを通じて私と学生間のコミュニケーションが充分ではないと分かりましたので、まず自分の日本語についての能力を高める必要があると思えます。そして、試験の時間など様々なルールや連絡をもっとはっきり伝える必要があります。自分の能力も上達しながら、将来学生さんが先生になったときに役立つポルトガル語を教えていきたいので、今後も新たな授業教材などを考えたい・作りたいと思えます。

## 授業方法について独自に工夫している点と、アンケート結果を受けての改善点

●授業方法について、独自に工夫している点 私は、現在小中学校で初任者指導の仕事も兼務していますので、現場の様子や初任者の状況等を学生に随時伝えています。教師になれるかどうか、なってからやっつけられるかどうかという不安を抱えている学生が多いので、その心配を少しでも解消できるような話をしています。現場の先生方でさえ、教師になる前は不安だったことや、教師になっても失敗ばかりで周りの先生方に助けられているという現状を話し、安心して教師の道を目指すことができるように配慮しています。授業では、チーム学習を取り入れ、違いを認め合い、協働の意識をもってもらうように工夫しています。毎回、席が近くの人で4人程度のグループを作り、考えを聞き合い、相談し合う時間を授業の中で何度も設定しています。模擬授業も行います。4人程度の班を指定し、協働指導案の作成から教材研究、授業準備、模擬授業実施までを班で行います。講義の内容は、「算数の授業ができるようにする」ことを目的とし、理論的なことだけでなく、実際に授業をする上で必要なことを学びます。具体的には、基本的な授業スタイルや教材研究の仕方、指導案の書き方、板書の仕方や子供の発言に対する切り返し、教科書の扱い方や資料提示の工夫等を学びます。実際に現場で活躍している若い先生やベテランの先生の指導案や授業記録を分析することにより、発問の仕方や教師の出方を学んでいきます。毎時間、私が独自のワークシートを作成し、それに沿って授業を行っていることも工夫している点です。ワークシートに朱書きを入れて次の回に返却し、また、全員に共有したい考えや質問とそれに対する私の考えを1枚にまとめ、授業の最初に渡して振り返っています。

●アンケート結果を受けての改善点 回答数が少なかったので何とも言えませんが、「どちらとも言えない」「あまりそう思わない」が少しあった質問で、「自ら調べたくなるような行動につながる」「今後の生活において重要な能力が何かを具体的に知る」場面の設定を意識して授業をしていきたいと考えます。自由記述では、特に心配な回答はありませんでした。

なるべく履修生への問いかけをして、履修生が発言する機会を設けるように心がけている。今後はより丁寧な説明をこころがけたい。

積極的に授業に参加できるように配慮すること。

対面とオンデマンドのハイブリット授業や複数担当による授業の効果的運営に引き続き方法及び内容開発に努めたい。

映像資料なども活用しながら、高齢者やその家族の抱える課題とその支援について学べるよう工夫した。グループでの意見交換の機会を増やし、さらに深めることができるようにしたい。

### 【独自に工夫している点】

これまで講義の授業では、①テキストの適切な使用、②補助プリントの作成、③新聞記事等を活用した現在の教育問題との関連づけ、④小レポートを活用した双方向的な授業などの工夫を行ってきた。遠隔授業（オンデマンド型）では昨年度作成した授業動画を大幅に作り直すことになった。動画の作成に際しては、見やすいスライド作り、情報の明確な提示、分かりやすい授業展開、教科書や補足資料への効果的な指示（関連づけ）に注意した。また、学生の負担が過重にならないよう、課題提示の回数を抑えることにした。

### 【アンケート結果を受けての改善点】

アンケート結果から見て、授業の教育目標はある程度達成されたと思われる。教育をめぐる状況の変化はめまぐるしいので、毎年、新しい情報を盛りこんでいく工夫を続けたい。今年度は、クラスを2グループに分け、対面授業と遠隔授業を隔週で行ってきた。授業動画（スライドショー）については、おおむねよい評価をえることができたようである。オンデマンド型授業では、受講生相互の意見交換の場を設定することが難しかったが、「まなびネット」の「フォーラム」をある程度活用することができた。課題（小レポート）の頻度は、授業3回につき1回とした。このレポート提示のタイミングや提出期間までの時間的な余裕については、おおむねよい評価をえることができた。課題に対するフィードバックにも心がけてきたが、受講生によっては不十分に感じている回答もあった。この点が、今後の最大の課題だと考えている。



## 授業方法について独自に工夫している点と、アンケート結果を受けての改善点

- ・受講人数と教室使用人数の関係で、学生を二つのグループに分けて、対面と遠隔の併用授業としました。学習資料は、遠隔授業でも分かりやすいように音声付きで提示しましたが、やはりこちらからの一方通行的な部分が多く、学生が理解しづらいところもあったかなと反省します。
- ・指定教科書はなく、毎回資料を持ち込みながらの授業でしたが、もう少し参考文献等を提示し、学生自身の学習範囲を広げていけるようにすればよかったなと思います。
- ・具体的な授業記録を用いて授業分析することが学生には興味があったようで、具体的場面で考えることと理論を融合できるような取り組みが一つでもできたかなと思います。

授業の一部を遠隔授業で実施した。遠隔授業(オンデマンド型)の講義動画は、分からない部分を何度も見直せて良いという意見もあれば、対面授業の方が分かりやすいという意見もあった。対面授業では多人数で考えなどを共有できる点が良いところであり、遠隔では難解な概念等の説明を何度も聞けるところが良いところとしてあげられる。対面と遠隔の良い部分が両立できるような、授業形態を模索していきたい。

3年生を対象とした発展的な科目では、これまでの関連科目で取り上げてきた施設に参観したり、実務家を招いて自身の仕事等について語ってもらう講演を実施したりしている。こうした内容は今後も継続して実施していく。

できるだけ、最新の知見やデータを基に、授業を行うようにしている。もう少し、学生間のディスカッション等ができるように工夫する必要があると考えられた。

対面での講義に加え、より効率的に知識を定着させるため、事前事後学習にオンライン(まなびネット)を活用すること

スタンドアローンな資料(紙、オンライン)を配布する。学習効果を高めるため、受講生が記入するスペースを資料に設定している。補助的な資料・課題(一部は任意)をまなびネットにアップし、学習効果を高める。より意欲のある受講生にも対応している。学習すべき内容・方法をより具体的に指示する。

算数・数学嫌いの学生が数学の楽しさを感じられるような課題提示の工夫や関わり合いのめたせ方など配慮した。アンケート結果は概ね良好なので引き続き努力する。

授業目標が何であるかを常に明白にしながら授業を行なった。また授業後に個別に確認作業を行なって報告をしてもらった。授業目標達成のための基礎的内容と授業目標を超えた発展的内容を明白にして授業を行なった。同じ科目の授業においては、授業を受ける側のモチベーションの高低によって受け取り方が違うことが分かったので、受講者側のモチベーションの高低を早めに理解し、そのやる気によって授業内容を変えていかないといけないのかを今後検討していく。その科目の応用を伝えることによってその科目に関心を持ってもらおうと思ったが、モチベーションの低い受講者に対してはさらなる別の事柄を考えていかないといけない。

概説授業(講義)においてコメントペーパーを活用し、生徒からの質問にフィードバックすることで、概説的講義でありながらある程度の双方向性を担保するようにした。アンケートではこの点について「調べる意欲に繋がった」との意見を得た一方、授業中に取り上げることができない質問もあり、そのため学生の意欲を削ぐ可能性が指摘された。次年度以降は生徒同士のディスカッションの機会を設ける可能性も視野に入れて授業を計画する。

久しぶりに、対面授業で実施した。受講生が、できるだけ各自で授業内容について調べたり制作面では試しができたりするように内容を考えた。また生き物について学ぶ授業では、実際の生態を学ぶことができるように昆虫を用意して観察できるように工夫した。今後は、さらに内容を検討して、受講生が新たな知識や技術を学ぶことができるように改善していきたい。

## 授業方法について独自に工夫している点と、アンケート結果を受けての改善点

オンラインの大規模な授業では、一定のルールに基づいて進めるほかないので、受講方法や評価についてガイダンスで周知徹底するよう努める。一方少人数の対面授業においては、できる限り受講者のニーズに対応する形で進めている。受講者の知識経験・興味関心を授業を通して把握し、臨機応変の対応を心掛けたい。

S科目は東洋史・西洋史の両方の分野を15回の授業で講述する形であるため、それぞれ7回の授業で通史を扱わなければならない。限られた時間数の中で、学生に広く学び、かつ考察を深めてもらうため、必要な情報をPowerPointのスライドにコンパクトにまとめ、論点を明確化し、さらに学ぶための情報(先行研究)を提示している。また課題を通じて、学習内容を把握して深める機会を提供し、個別にコメントをフィードバックしている。そのため、アンケートでも学習内容の満足度はかなり高いものがあった。ただし、時間の都合上、授業内での問いかけや議論を実施する機会がなく、そのことは結果にもあらわれている。これは致し方ない部分であるが、例えば課題で考察の題材を増やしたり、毎回1回でも簡単な質問を投げかけたり、といった改善を考えてみたい。

家庭科の学習内容や学習指導要領を説明したうえで、実際に学習指導案を書き、グループごとの模擬授業を行った。教育実習や将来教職に就いたときに役立つと、ほとんどの学生が評価している。連絡・指示が不明確であったという意見もあったので、さらに配慮していきたいと考える。

まなびネットのフォーラム機能を用いて授業中にクイズを実施して、その回答結果についてクラス全体で共有するなどしている。授業の進度が少し早いこともあるため、学生から見て内容が複雑なものについてはゆっくりと丁寧な話をする。

学生が主体的に活動できる授業スタイルを盛り込むようにすることで、学生が考える姿勢をとれるようにしている。回答者からは一定の評価を得られているので、このまま継続していきたい。

アクティブラーニングとしての、話し合い・討論などの言語活動を取り入れるように工夫している。アンケートの結果から、学生の授業外での学びについても示唆する必要性を感じた。

工夫している点は、(1)大部分は対面で行い、かつ、すべての回をオンデマンドで受講できるようにしている点と、(2)授業内容に関して、教科内容学であるができるだけ教科教育との接点を生むようにしている点である。アンケートを受けての改善点としては、おそらく、オンデマンドのみで受講している学生と思われるが、ディスカッションなどの時間が十分になかった、と答えていた点で、オンデマンドでも何か意見交換の要素が増すように心がけたい(現在でも、質問を受け付け、できるだけ回答してはいる)。

- ・講義では、感染に配慮しつつもできるだけ学生同士意見を交換できる機会を設けるよう工夫している。
- ・質問に対する回答は個別にしたが、即時対応できていなかったため、今後は改善していきたい
- ・課題の提出期間が短いという点については、次週の講義内でその結果を振り返りたいという意図があつての設定だったが、もう少し余裕を持たせられるよう工夫していきたい

授業を通して受講生がほんの少しでも何らかの気づきをしてくれることはとても大切なことだと思います。そういった授業を心掛けたいと思います。そのためには、受講生の興味・関心や理解度などに目配りをして、臨機応変に授業を展開することでより深く考えてもらう機会(契機)を作れたらと考えています。

- ・遠隔授業を数回、対面授業を中心に実施した。授業では、視聴覚教材を活用したり、パワーポイントによる解説等を取り入れたり、適宜、グループでの活動やディスカッションを取り入れた。アンケート結果によると、本授業では、概ね授業目標を達成し、授業内容と授業方法も妥当であり、受講生もこの授業にある程度、満足しているといえよう。
- ・今後、授業内容の「意義や必要性」を受講生自らが考え実感できるよう知的好奇心を刺激する授業の内容と方法、および、授業の課題を工夫したい。

## 授業方法について独自に工夫している点と、アンケート結果を受けての改善点

授業回ごとに「学んだこと」と「質問」を回答する課題を出している。授業の冒頭に課題の回答の傾向を示し、質問に回答する時間を設けている。これらの工夫で学びが深まったと感じている学生が多くないので、さらに改善する。

アンケートの問5「シラバスに掲げる授業目標から考えると、自分は「目標を概ね達成したレベル」を越え、より優れて学べていると感じる機会があった。」について、「ややそう思う」という回答の割合がとても高かった。「とてもそう思う」という回答を多くするには何が必要なのか、考えていきたい。

一方通行の授業にならないよう、各講義・実習とも学生との双方向のやり取りや、学生間のディスカッション、学生自身で手を動かして学べるコンテンツ等を充実するよう心がけています。アンケートではおおむね妥当な評価を受けていると思いますが、全員の関心を高められているわけではないことが読み取れるので、学生が学習意欲を持てるような工夫をさらに継続していきたいと思っています。

工夫している点は、学生に毎回感想を書かせ、次の時間にその内容を紹介しながら、振り返りと次の講義内容との接続を図った。また、昨年度まで現場にいたことから現場の情報や多くの資料をもとにパワーポイントにまとめ、質の向上を図った。  
改善点としては、模擬授業の質を高める工夫をよりいっそうしていく必要がある。そのための前半の講義については内容を学生にわかりやすい形にして示すことや学生の実体験をもとに授業の在り方について問い返しながら臨めるようにしていきたい。模擬授業についても、学生の意見交換の場を今以上に増やしながらか、よりよい授業の在り方について他の教科教育法と関連付けさせながら取り組みたい。

教育内容の教授については、体験活動や話し合い活動、協働学習を多く取り入れて学生の理解促進を図った。今後は、ICT機器の活用にも力を入れたい。

なるべく多くグループ討議を取り入れるように工夫している。学生がより興味を持ち、自ら学ぶ意欲が持てるような資料が提示できるように授業を改善していきたい。

学生に興味・関心をもってもらうため、理論と実技のバランスを常に考えている。また、苦手意識を克服できるよう、個人個人のレベルや達成状況の把握に努め、そして、それに合った対応を心がけているつもりである。アンケート結果は調査参加人数が少ないため、参考にしにくいところもあるが、以下の点を改善点としてあげておく。

- ・グループディスカッションも多く取り入れていきたい。
- ・難しいが、他の分野や事象との関連づけを、さまざま考えたい。
- ・課題探求力を高めるべく、自ら主体的に調べる方法を模索したい。

自習では遭遇することのない内容、一人ではできず対面の授業だからこそ可能な内容を、授業で扱うようにしている。話し方で聞き取りにくいというアンケート結果が1名あったので、はっきり話すように努めます。

コロナの影響で、受講生の人数を制限するため大学での制作と家での製作を交互に行うこととしている。授業前30分前に行き窓を開け、空気の入替え等を行った。興味のある学生は良いが、単位さえ取ればよいという学生をどのように制作に向かわせるのかが難しい。ユーチューブでリンゴの描き方等を見せると、興味を持つ学生もいる。

教職科目については、対面とオンデマンドのハイブリッドであったため、オンデマンド回の課題が学生に負担にならないよう配慮を試みましたが、もう少し挑戦的な内容であっても良かったかもしれないと感じました。

本職は実務家出身であることからそうした実践経験と研究の両方を兼ね備えた授業展開を心がけている。そうした取り組みが学生にも伝わったのか、知識の修得だけではない、興味関心について自分自身で調べ、考え、表現するということにつながったと思われる。今後も、このような取り組みを通じて、学生の思考力や表現力を涵養する授業をしていきたい。



## 授業方法について独自に工夫している点と、アンケート結果を受けての改善点

演習形式の授業では、受講生が調べて書いたり発表したりする内容になるように心がけています。一方で、課題の内容については、受講生の力量によって難し過ぎる場合や簡単すぎる場合もありますので、できる限りバランスの取れたものになるように考えています。

書道実技を含む授業が多いため、個別に添削などの指導を行う際に、個々の抱える問題や課題について、説明をしている。しかし、受講者数が多いことから、個別指導時間が限られるため、課題についての説明を中心に行っている。この点は、今後、再検討し、良い点などへの評価を増やすことも行い、個々の良さを伸ばすポイントについても着目できるようにしていきたいと思う。

### 【工夫した点】

①事象について理解しやすくなるように、また自身でも新たな気づきを得ることができるように、映像等を視聴するようにした。それらの学習を支援するためにワークシートに感想等を書くようにした。

②学びを深めるために、グループ内で意見交換やディスカッションを行うようにしたが、事前にその内容を考えられるようにワークシートにそれらを記すようにした。

### 【改善点】

授業ではなぜこのテーマを取り扱うのか、冒頭で説明するようにしていた。問1のアンケート結果から一定の必要性は伝わっているように思われるが、それが学生の立場から意欲がわくものであったかについては、ふり返ってみれば課題が残ると考えた。関連して特に注目したのは問2、問5、問6のアンケート結果である。これらは、授業内容をどのように理解できたかということを示していると考えられる。一定の目標レベルまで、また他の分野等と関連づけて理解できたかについては、教師側の工夫も求められている。二つのクラスを担当していたが、一つのクラスでは、問2「理解しやすいように、…工夫のある「教え方」が展開された」に対して、「よくあった」、「ある程度あった」という回答については後者が多く、また「あまりなかった」、「なかった」という回答もそれなりにあった。自由記述を見れば、「難しい言葉が多く使われていてあまり頭に入ってこなかった。しかし、実際にテレビで放送されていた動画などはわかりやすかった」という回答があった。ちなみにこの回答者は工夫の展開が「なかった」と答えている。以上から考えられる改善点を述べる。身近でない概念や理論等を紹介するときは、その内容を精選することである。学生の身近な話題、また既習内容との関連をより考慮して、教材の見直しを行いたい。難しい内容を皆無にすることは出来ないが、難しい内容であっても分かりやすい説明を心掛けたい。他に工夫できる点としては、ワークシートで理解度を測り、教師側からできるだけフィードバックも返すようにしていたが、こちらの学生とのコミュニケーションがより円滑にできるように気をつけたい。また、特に難しいと思われる内容については、学生同士で学び合いができるような機会を設けることも考えていきたい。

スポーツの実技科目であることから特に、多くの人とたくさんコミュニケーションをとることができるように行った。

- ・外部の専門家を招き実践的な話を聞いたり、フレームワークを使って課題を明らかにさせるなど、学生が主体的に取り組むための支援を意識した授業を心掛けている。
- ・毎回授業後、振り返りシートに授業の要点や課題に思う自身の考えを書かせることで、授業の理解、課題意識の向上に努めている。
- ・学生の意見では資料が多い、プレゼンの文字数が多いというものがあった。要点を絞った資料の作成やキーワードの明示、ポイントを絞った授業展開について心掛けたい。

## 授業方法について独自に工夫している点と、アンケート結果を受けての改善点

S2科目では教育実践論文で紹介されているグループワークを実際に行う・発問をロールプレイで実施する・自ら導入や発問を考えグループで模擬的に実践するなどの活動を行った。実際に授業を考える上で参考になるような実践的活動は今後も継続したい。反省すべき点としては、まなびネットを通じてグループ限定で指導案の下書きなどを共有し、掲示板にそれぞれフィードバックを書き合う活動を行った際、フィードバックの書き方で傷ついたことがあったという感想が寄せられたことである。文字での表現は与える印象が口頭よりも強い・冷たいものになりがちであることをふまえて、どのような書き方が適切であり、相手にとって役立つものであるかということをも丁寧に説明しながら進めたい。同様のオンラインフィードバックはFS科目でも行っているため、同科目でも同様のことを強調しながら進めていく。そのFS科目では、主張と根拠のある文章、要約と引用、資料の調査と考察などのテーマに応じて、毎回短い文章を書く課題を示した。長いものを数回書くよりも短いものを多く書くことで練習になったと感じたという声もあったので、今後も様々なタイプの文章を書く機会を設けたい。S科目(1)S科目(2)では、そもそもアンケートの回答率が低かったことが改善点として挙げられる。授業内でアンケートに答えてもらう時間を作る余地がなかったことが原因だと思われるので、今後は対面授業の日に回答するための時間を設けたい。回答においては、演習発表後のフィードバックにおいて学びを得られたことや、日本近代文学を分析するための視点を得られたことが良い経験になったとのコメントがみられたので、今後も継続して日本近代文学を学ぶ上で重要な視点について解説を行いたい。

演習形式を取り入れているが、教科書の内容のまとめだけではなく、自分で調べたことも含めるよう指示しているが、その点がやや物足りない面も見られた。教科書の内容を講義で行い、発展的な内容に絞って発表させた方が良かったかもしれない。

<授業方法について、独自に工夫されている点>

- 1、受講生たちに、到達目標を示す際に、CEFR-Jの指標を使用して、4技能のどの分野を重点的に狙った授業をしているのかをシラバスにて提示した。
- 2、1クラス50名という大人数のクラスでもスピーキングに繋がる授業を心がけ、音読を積極的に取り入れ、各自がしっかりと取り組めるよう、課題を提示した。

<アンケート結果を受けての改善点>

e-learning(ALC NetAcademy)の評価方法がよくわからないという声があった。私も新人の非常勤講師であり、今年度は同システムをよく理解できていなかった部分があった。それを受けて、後期の授業においては、初回授業において、どの程度までを行えば加対象となるのか明確に説明した。

授業アンケートについて、主に講義形式と学生のグループ学習と発表によるAL中心の授業を担当したため、それぞれについて記す。

講義形式の授業では、資料をPPTでスクリーンに示すとともに、授業のキーワード等の部分を空白とした用紙を配布した。板書に割く時間を必要最小限とする一方、心理学に関わる専門用語等については内容説明だけでなく、適宜臨床・研究活動における経験を基にした架空事例や具体的な例を挙げ、知識獲得だけでなく学生の体験とつなげるよう努めた。また授業内で2~3回程度、考察テーマを提示して学生同士の短時間のディスカッションを設けた。これらの取り組みで、特に学生同士のディスカッションについて高い評価が得られた。今後はディスカッションの活性化や深化に向けて、テーマだけでなく具体的な検討点や視点の提示をするなど発展させていく。

グループ学習と発表を用いた授業では、初めに教育現場における課題について心理学的視点を踏まえた講義を行い、問題意識と基本的な知識を提示した。その後、教育現場における課題に関する調べ学習と発表というミッションを提示し、学生同士がグループで取り組むことによって、相互サポートや役割分担といったチームで取り組む環境を設定した。グループ学習では適宜机間巡視による質問対応やサポートを行ったが、学生ら自身でも徐々に積極的に関わり合う姿がみられるようになっていった。本授業のアンケート結果からはやはりグループ学習というALに関する評価が高く、主体的かつ相補的な学習に取り組めたことや、また論文や行政資料等の情報を自ら収集して検討するスキルといった専門性の高いスキルに触れる機会となったことが、学習満足度を高めたものと考えられる。本授業は1年生を対象とした授業であったため、一方で取り組む内容がうまく理解できなかったり実施できなかったりという姿も散見されたため、より具体的な教示や教員による学習サポートを検討したい。

## 授業方法について独自に工夫している点と、アンケート結果を受けての改善点

月並みではあるが、学生の声(授業への感想や疑問、要望など)に丁寧に耳を傾け、対応することが妥当と判断される声については、積極的に応えるようにしている。そのことで、授業内容を分かりやすいものに、受講する環境をよりよいものに、授業運営を透明なものにできるように心がけている。

授業アンケート結果を拝見する限り、今回は上記の取り組みが有効に作用したものと考えられる。私自身は、こういう地道な取り組みが実はとても大切であると考えている。今後も続けていきたい。

今後の課題としては、ディスカッションなどの対話的な取り組みが中途半端になっていることである。現実的には、コロナ禍がある程度解決しないと難しいが、検討は続けていきたい。